

リーダー選出方法

どの様に長老、または執事を選出すべきなのかという問いは、教会にとって重要な質問である。正しい選出方法を用いることによって、教会は、それぞれの職にふさわしい人々を正しく選択することができるのである。現在のキリスト教会を見たときに、大きく分けて2つの選出方法を見つけることができる。ひとつはより高い権威を持った者による選出であり、もうひとつは教会員による選出である。

1. より高い権威を持った者による選出

主にローマ・カトリック教会においてこの方法が用いられる。ローマ法王によって、枢機教や司教が選ばれ、司教が、一般祭司を選出する。監督制による教会組織を用いているプロテスタント教派も、カトリックに似た形で、それぞれの牧会者などを、選出している。

この選出方法の特徴は、会衆が、教会のリーダー選出に関してなんの権限も持っていないという点である。これは、聖書と比較したときに誤ったものであることを見て取ることができる。なぜならば、聖書は、教会全体がリーダーの選出に関わっていると教えているからである。

2. 教会員による選出

A. 教会員が選挙によってリーダーを選出する。

多くの会衆制の教会で行われている教会役員選出方法がこの方法である。この選出方法をとる理由としてあげられることは、新約において、教会の役職は教会全体の決断として記されているという事である。

もっとも良く用いられる例として、使徒6章があげられる。ここで、エルサレムの教会員たちは使徒の命令を受けて、彼らのために仕える7人の人々を選出した（使徒 6:3-6）。これと似たことがパウロとバルナバが第一次宣教旅行の時に各地で長老たちを選出したときにも行われていたと思われるとある神学者達は言う。また教会全体による選択という点を示している箇所として、2コリント 8:19 や使徒 15:22 などがあげられる。パウロは、エペソの長老たちに関して、彼らが、パウロによって選ばれたとは言わず、聖霊によって選ばれたと言っている（使徒 20:28）。これは聖霊が宿っている教会員全体の決定を指していると解釈されている。

B. 既存のリーダーによって選出され、会員によって支持される。

この選出方法は、上記二つの選出方法と区別されるべきものである。ローマ・カトリック教会制度と違い、この方法は、既存のリーダーによる一方的なまた無条件の選出ではなく、会員の承認が求められている。また会員に決定権のある選挙による選出とは違い、リーダーとしての働き（長老または執事）に就くにふさわしい者があらかじめ既存のリーダーたちによって選出されていて、会員にはそれらの人を自分たちのリーダーとして仕えて行くにふさわしい人かどうかを確認する役割が与えられている。

上記 A.の聖書的支持をもう一度振り返って見てみると次のようなことが分かる。

- 使徒 6:3 では、選出方法に関して詳しい説明はいっさいされていない。

つまりこの箇所から、教会員全員が一票ずつ投票してこの7人を選出したと断定することは不可能である。当時のユダヤ人は旧約の時代からあるように、それぞれの部族の代表であった長老のリーダーシップのもと、様々な出来事を、いわば代表政治的な形でとりおこなっていた。これは何千人もの会員を持っていたエルサレム教会の中でも行われていたことではないかと容易に想像できる。もしそうだとすれば、これら7人は、教会員全員による選挙によって選出されたのではなく、代表者によって選出され、それを全員が支持するというかたちで選出されたという解釈もできるのである。いずれにせよ、この箇所から具体的な選出方法を導き出すことはできないのである。

- 使徒 14:23 はパウロとバルナバが第一次宣教旅行の時に長老たちを選んでいくことを指す記事であるが、ここでも、教会員全員が長老の選出に携わっていたという事は書かれていない。

まず第一に言えることは、この箇所では長老を選んでいるのはパウロとバルナバであるという点だ¹。神学者達がこの箇所では選挙による長老選出が行われていると解釈する理由は「選ぶ」と訳されているギリシャ語に基づいている。この言葉は「ケイロトネオー」という動詞で、古代ギリシャ語では、「手を掲げることによって投票する」という意味を持っていた。ゆえに、この箇所も、人々の

¹ 事実原典には「彼ら（文脈上明らかにパウロとバルナバを指す）が選んだ」と書かれている。

選挙によって選出された長老たちをパウロとバルナバが接手したというふうに解釈されているのである。しかし、新約聖書を見たときに、この動詞は、古代ギリシャ語の持っていた「投票する」という意味を失って、単に「選ぶ」という意味を持っていることが分かる。この単語はこの箇所他に2コリント 8:19 で使われているがここでも「選挙によって選ばれた」という意味ではなく、新改訳にあるように、「任命された」という意味を持っている。ここでは特に、「諸教会によって」という言葉が加えられているゆえにこの一人の兄弟が多くの教会から投票によって選ばれたということは想像できない解釈である。またこの単語の変化系が使徒 10:41 で使われているが、ここでも投票によって選ばれたという意味は全くない。つまり、使徒 14:23 では、パウロとバルナバが長老たちを選出していたのである。

- 使徒 15:22 は教会員の選挙によって、バルナバとシラスが選ばれたとは書いていない。

ここで注目しなければいけないことは、「使徒たちと長老たち」と「全教会」が「決めた」と書いてあるのではないということだ。原語を見たときに、はっきりと「使徒たちと長老たち」が主語であるのが見て取れる。つまり決定を下したのは使徒たちと長老たちであって、教会員は、その決定を賞賛し、賛成したということを示しているのである。

- 使徒 20:28 も、教会員によってエペソの長老たちが選ばれたとは書かれていない。

この解釈は明らかに結論を前提においた上でみことばを解釈しているものであって、聖霊に満たされた教会員たちによって選出されたと解釈するのと同じように、聖霊に満たされ、また命じられてパウロが選出したとも言うことができるのである。誰が長老にふさわしいかということを考えるときに、その人がまず長老の職につくことを望んでいるということがあげられる（1テモテ 3:1b）。この願いを与えるのも聖霊の働きであり、それゆえに聖霊が彼ら長老たちを選んだとすることができるのである。

これらにあるように、聖書は会員が選挙によってそのリーダーたちを選ぶのではなく、既存のリーダーたちが長老、また執事の働きにふさわしい者

を選出している姿を記している。しかし、これによって、会員たちが全く何もしないのだと考えるのは間違っている。聖書的なリーダーたちは会員たちが積極的に参加し、彼らによって様々な知識を得ることを望む者たちである。またリーダーは会員の言葉に耳を傾け、相談し、彼らの知恵を必要とする者でもある。会員たちに仕えていくリーダーを選出するにあたり、それらの者が会員たちから認められ、受け入れられることは重要な要素である。それゆえに、既存のリーダーたちによって選出された候補者らが、会員たちによって審査されることは重要なことなのである。もしこれらの候補者の霊性、また人格に対して、会員の中から非難の声があるならば、既存のリーダーたちは、その真偽について調べ、それらの非難がみことばに基づいて正しいものかを判断する必要がある。これらの会員からの非難はみことばに基づいたものでなければならず、もし個人的な判断であるならば、それらによって候補者を退けるべきではない。この審査の時は、候補者の霊的特徴を審査するときであり、もしこれらの候補者に対して、一つでも、みことばに基づいた反対があるならば、たとえ他のすべての人が認めたとしても、その人は、リーダーとしてふさわしくないと判断されなければならない。なぜならば、人からの人気ではなく、神の基準だけが神の家を治める基準であるからだ。